

Report on Survey Research about the 2013 House of Councillors Election in Kanazawa City : Effects of Candidate Images on Voting Behavior

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36790

金沢市における「選挙に関する意識調査」報告書

—— 2013 年参院選における候補者イメージを中心に ——

岡 田 浩

1. はじめに

本稿は、金沢大学北陸政治行政研究会（代表責任者 岡田 浩）によって 2013 年 7 月の参議院選挙後に金沢市で行われた「選挙に関する意識調査」の結果の一部に焦点を当てて分析を加えたものである。

金沢大学北陸政治行政研究会では、2013 年 7 月 21 日に投票が行われた第 23 回参議院選挙後の 8 月 8 日に、金沢市選挙人名簿に登録されている約 36 万人の中から無作為で抽出した 1,500 人の方を対象に、調査票を返送用封筒とともに郵送した。発送後、約 3 週間の間に 573 人の方からご回答を頂いた。郵送した数に対する回収率は 38.2%である。

この調査の対象となった 2013 年参院選では、与党の自民党が改選 34 議席を 65 に大幅に伸ばして大勝し、連立を組む公明党と合わせて参議院の過半数を獲得して、衆参の多数派が異なる「ねじれ国会」が解消された。民主党は、改選 44 議席を結党以来最低の 17 に減らして大敗し、参議院の第一党から転落した。注目されていた「第三極」の政党については、2012 年衆院選で躍進した維新の会は 8 議席、前回 2010 年参院選で 10 議席を獲得したみんなの党は 8 議席で伸び悩んだ。共産党は、12 年ぶりに選挙区でも議席を獲得するなど躍進して改選 3 議席を 8 に伸ばした。

1 人区の石川県選挙区では、農水省の元官僚で自民党公認・公明党推薦の新人の山田修路候補、現職で 2 期目を目指す民主党公認の一川保夫候補、共産党公認で新人の亀田良典候補、無所属で新人の浜崎茂候補、幸福実現党公認で新人の宮元智候補の 5 人が立候補していたが、山田候補が 64.8% の票を獲得し

て、23.0%を獲得した現職の一川候補を41.8ポイントの大差で破った（〔表1〕参照）。安倍晋三首相の経済政策「アベノミクス」への期待などから来る自民党への追い風や、過去の民主党政権への批判などからくる民主党への逆風、といった全国的な「風」の影響は当然あったであろう。しかし、一川候補は、農水省退官後の1991年に石川県議会議員に初当選して以来、県議会議員を2期、衆議院議員を3期、参議院議員を1期と、石川県で長く議員を務めており、また、参議院議員の任期中には防衛大臣や民主党参議院幹事長などの要職も務めており、有権者の認知度は高かったはずである。それにも関わらず、なぜこれほどの大差で敗れたのであろうか。政党への「風」の前には、現職であれ、大臣経験者であれ、候補者個人は無力なのであろうか。

本稿は、有権者の投票行動に影響を与える要因の1つである候補者イメージに注目し、有権者は候補者をどのようなイメージで捉えているのか、そしてそれは投票行動にどのような影響を与えているのかを、2013年参院選後の金沢市における意識調査のデータを、前回2010年参院選後に行った同様の調査¹のデータとも比較しながら分析することによって明らかにしたい²。

-
- 1 2010年7月の参院選後の8月に、金沢市選挙人名簿に登録されている方の中から1,500人の方を無作為抽出して調査票を郵送した。回収数は708、回収率は47.2%であった。
 - 2 本稿は、候補者イメージと投票行動の関係などについて分析するが、浜崎候補と宮元候補については、本調査の回答者の中に、これらの候補者に投票した人が非常に少なく分析が困難であるため、山田候補と一川候補と亀田候補の3人に主に焦点を当てて分析を進める。

[表1] 2013年参院選石川県選挙区開票結果³

	石川県		金沢市		氏名	党派	推薦
	得票数	得票率	得票数	得票率			
当選	321,286	64.8%	106,813	62.4%	山田 修路	自民党	公明党
	113,817	23.0%	39,024	22.8%	一川 保夫	民主党	
	40,295	8.1%	18,668	10.9%	亀田 良典	共産党	
	10,114	2.0%	3,786	2.2%	浜崎 茂	無所属	
	9,935	2.0%	2,895	1.7%	宮元 智	幸福実現党	

2. 有権者の候補者イメージと認知度

本調査では、「今回の参議院選挙の石川県選挙区の立候補者について、どのような印象を持ちましたか。それぞれの候補者について当てはまる番号をすべて選んで下さい」という質問文の後に、5人の立候補者の名前と、「政策や主張がよい」「実行力がある」「人柄がよい」「以上のいずれの印象もない」の4つの選択肢を並べて複数回答可で答えてもらった。その集計結果が[表2]である。

[表2] 各候補者についての有権者のイメージ⁴

	山田候補		一川候補		亀田候補		浜崎候補		宮元候補	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
政策や主張がよい	101	17.6%	28	4.9%	28	4.9%	2	0.3%	6	1.0%
実行力がある	59	10.3%	32	5.6%	10	1.7%	2	0.3%	3	0.5%
人柄がよい	100	17.5%	48	8.4%	23	4.0%	7	1.2%	10	1.7%
いずれの印象も無い	301	52.5%	393	68.6%	426	74.3%	461	80.5%	454	79.2%
無回答	65	11.3%	89	15.5%	98	17.1%	102	17.8%	104	18.2%
合計	626	109.2%	590	103.0%	585	102.1%	574	100.2%	577	100.7%

3 石川県選挙管理委員会ホームページより作成。

4 複数回答可の設問であるので、各候補者のイメージについてのパーセントの合計は100を超える。これ以降の表も同様である。

まず、「いずれの（良い）印象もない」の多さに注目すると、新人の山田候補が 52.5% で最も少なく、何らかの良いイメージを持つ人が多かったことがわかる。山田候補は、自民党の候補者公募選考の結果、前年 2012 年 10 月には参院選石川県選挙区の候補者として内定しており、2012 年 12 月の衆院選時には自民党候補の出陣式や街頭演説でマイクを握るなど、早い時期から有権者に浸透をはかってきたためであろうか⁵。現職の一川候補は石川県で長く議員を務めてきており、防衛大臣などの要職も務めたにも関わらず、「いずれの（良い）印象もない」が 68.6% で山田候補より多い。防衛大臣在職時に、地元で自衛隊の戦闘機の部品が落下する事件があった際に対応が遅れたとの批判や⁶、「私は安全保障の素人」等の発言などが問題視されて参議院で問責決議が可決され、在任 4 ヶ月の短期で大臣を退任したことなどから、現職で認知度は高くても、良いイメージはあまり持たれていなかったのであろうか。

認知度に関して、候補者への好き嫌いの評価を尋ねた別の設問⁷への回答率を 1 つの指標として見てみると、山田候補の回答率は $457/573=79.8\%$ 、一川候補は $441/573=77.0\%$ 、亀田候補は $424/573=74.0\%$ 、浜崎候補は $413/573=72.1\%$ 、宮元候補は $416/573=72.6\%$ となっており、好きか嫌いかはさておいても、現

5 『北國新聞』2012 年 12 月 11 日。

6 『朝日新聞』2011 年 12 月 10 日（石川県面）。

7 質問文は以下のとおりである。

「あなたは、次に挙げる政党や候補者に対し、好意的な気持ちを持っていますか、それとも反感を持っていますか。好意も反感も持たないときは 50 度としてください。好意的な気持ちがあれば、その強さに応じて 51 度から 100 度、また、反感を感じていれば、49 度から 0 度のどこかの数字で答えてください」

なお、この設問への回答の平均値は、山田候補 51.1、一川候補 34.8、亀田候補 34.7、浜崎候補 28.8、宮元候補 29.0 であった。山田候補に好感を持つ自民党支持者が多いために山田候補の好感度が高く出ている可能性もあるが、支持政党を持たない人について平均値を計算してみると、山田候補 46.1、一川候補 37.3、亀田候補 36.6、浜崎候補 31.7、宮元候補 31.4 であり、山田候補と他の候補者の差は縮まるものの、山田候補の好感度がやはり最も高かった。

職の一川候補の回答率は新人の山田候補に及ばない。山田候補に注目していた自民党支持者が多いために山田候補の回答率が高くなっている可能性もあるが、支持政党を持たない人だけについて見ても、山田候補の回答率は $182/215=84.7\%$ 、一川候補は $178/215=82.8\%$ 、亀田候補は $176/215=81.9\%$ 、浜崎候補は $173/215=80.5\%$ 、宮元候補は $173/215=80.5\%$ で、一川候補の回答率は山田候補に及ばない。

以上のことから、好きか嫌いかはさておいても、一川候補は現職ではあるものの、認知度の点で新人の山田候補に及んでいなかったと推測できる。意外な結果であるが、県議会議員を2期、衆議院議員を3期、参議院議員を1期務めたとはいえ、県議会議員（県南部の小松市選挙区）と衆議院議員（県南部の石川二区）の時期は、本調査の対象である金沢市は選挙区に入っていなかったことが影響しているのだろうか。

前回調査と比べると、前回調査⁸では自民党公認の現職候補が、政策（良いイメージを持つ人が16.9%）、実行力（良いイメージを持つ人が28.1%）、人柄（良いイメージを持つ人が26.6%）のいずれの点でも候補者中最も良いイメージを持たれていた。特に、現職であり実績をアピールできるゆえか実行力の点で良いイメージを持つ人が多く、また、任期中のマスメディア等への露出ゆえか人柄についても良いイメージを持つ人が多かった。今回、現職の一川候補は、いずれの点でも自民党の新人の山田候補に大きく差をつけられている。現職であっても、必ずしも実行力などの点で有権者の良いイメージを得られるわけではないようである。山田候補は、政策（良いイメージを持つ人が17.6%）、実行力（良いイメージを持つ人が10.3%）、人柄（良いイメージを持つ人が17.5%）の全ての点で、良いイメージを持つ人の比率が他候補を大幅に上回っているが、前回調査の自民党現職候補と比べると、政策は若干上回っているも

8 前回2010年参院選の石川県選挙区では、自民党公認の現職で2期目を目指していた岡田直樹候補、民主党公認・国民新党推薦の新人の西原啓候補、共産党公認の新人の近松美喜子候補の3人が立候補し、岡田候補が55.5%の得票率で当選した。

の、実行力と人柄の点では、新人であるためか大幅に下回っている。山田候補は公務員としての経験や人脈を活用できるとして「即戦力」を選挙公報などでアピールしていたが、新人候補の立場では実行力のアピールにも限界があったようである。

3. 候補者イメージと支持政党及び投票候補の関係

次に、[表3]で候補者イメージと支持政党の関係をしてみると、自民・民主・共産の支持者は、支持政党の公認候補に全体的に良いイメージを持っていることが分かる。特に、政策についての評価が高い⁹。これは前回調査でも確認されたことである。しかし、支持政党の公認候補であっても「(良い)印象がない」と答えた人も多く、山田候補について自民党支持者の29.2%、一川候補について民主党支持者の35.8%、亀田候補について共産党支持者の18.5%もいる。

支持政党を持たない人について見ると、山田候補が、政策、実行力、人柄のいずれの点についても一川候補を上回っており、先の[表2]で山田候補に良いイメージを持つ人が多いのは、山田候補に好意的である自民党支持者が多いから、という理由だけではないことが分かる。

9 平野浩 (2007)『変容する日本の社会と投票行動』木鐸社、においても、政党支持の効果は候補者の政策的主張に対する評価に対して最も大きいことが確認されている。その理由について平野は「信頼性や能力がほぼ純粋にその候補者個人の資質であるのに対し、政策的主張はその政党の政策と一体のものであることから、当然に予想されうる結果である」と述べている (116 ページ)。

[表3] 「候補者イメージ」と「支持政党」の関係

(％は各政党の支持者数を分母とする)

		支持政党						合計
		自民党	民主党	共産党	その他の 政党支持	支持政党 無し	無回答	
各 候 補 の イ メ ー ジ	山田候補： 政策や主張がよい	65 33.9%	6 11.3%	0 0.0%	8 13.6%	19 8.8%	3 11.1%	101
	山田候補： 実行力がある	27 14.1%	7 13.2%	1 3.7%	4 6.8%	16 7.4%	4 14.8%	59
	山田候補： 人柄がよい	62 32.3%	6 11.3%	0 0.0%	8 13.6%	22 10.2%	2 7.4%	100
	山田候補： 以上のいずれの印象もない	56 29.2%	27 50.9%	19 70.4%	36 61.0%	149 69.3%	14 51.9%	301
	山田候補： 無回答	17 8.9%	10 18.9%	7 25.9%	6 10.2%	17 7.9%	8 29.6%	65
	一川候補： 政策や主張がよい	3 1.6%	14 26.4%	1 3.7%	1 1.7%	7 3.3%	2 7.4%	28
	一川候補： 実行力がある	11 5.7%	8 15.1%	0 0.0%	1 1.7%	11 5.1%	1 3.7%	32
	一川候補： 人柄がよい	11 5.7%	9 17.0%	3 11.1%	4 6.8%	19 8.8%	2 7.4%	48
	一川候補： 以上のいずれの印象もない	131 68.2%	19 35.8%	17 63.0%	46 78.0%	167 77.7%	13 48.1%	393
	一川候補： 無回答	37 19.3%	9 17.0%	7 25.9%	7 11.9%	19 8.8%	10 37.0%	89
	亀田候補： 政策や主張がよい	3 1.6%	0 0.0%	11 40.7%	2 3.4%	9 4.2%	3 11.1%	28
	亀田候補： 実行力がある	1 0.5%	1 1.9%	4 14.8%	0 0.0%	3 1.4%	1 3.7%	10
	亀田候補： 人柄がよい	5 2.6%	4 7.5%	10 37.0%	3 5.1%	1 0.5%	0 0.0%	23
	亀田候補： 以上のいずれの印象もない	140 72.9%	33 62.3%	5 18.5%	46 78.0%	189 87.9%	13 48.1%	426
	亀田候補： 無回答	43 22.4%	16 30.2%	4 14.8%	8 13.6%	17 7.9%	10 37.0%	98
合 計		192	53	27	59	215	27	573

次に、[表4]で、候補者イメージと投票候補の関係を見てみると、たとえば山田候補について「政策や主張が良い」と答えた人のうち75.2%が山田候補に

投票しているように、政策、実行力、人柄の点で良いイメージを持っている人は、その候補者に投票する傾向があることが分かる。特に、政策の点で評価する人にその候補者に投票する傾向が強い¹⁰。これは前回調査でも同様であった。一方、各候補者について「印象がない」と答えた人には、棄権した人や無回答が多い。これも前回調査で確認されたことであるが、候補者イメージが投票の際の重要な手掛かりになっているといえそうである。

前回調査では、共産党候補について、たとえ良いイメージを持っていたとしても、他の候補者に投票が流れている比率が高かった。今回の亀田候補についても、良いイメージを持っている人の亀田候補への投票率は山田候補、一川候補に比べて低くなっていることが確認できる。これは、有権者が、単純に自分が最も支持する候補者に投票するのではなく、自分の一票を有効に活用するために当選可能性など選挙の情勢を考慮に入れて投票する「戦略投票¹¹」の影響と考えられる。たとえ支持する候補者がいたとしても、当選の見込みが低い場合は、当選の可能性のある候補者のうちで、より好ましい（あるいは、よりましな）候補者に投票する有権者は一定程度存在するであろう。

10 平野浩（2007）、前掲書、117-118 ページにおいても、2005 年衆院選後に行われた意識調査のデータの分析の結果、能力や信頼よりも候補者の政策に対する評価が最も投票行動に影響を与えることが確認されている。このことについて平野は「人を選ぶ小選挙区での投票においても、候補者の個人的特性に関しては、有権者は第二義的な意味しか見出していないように見える」と述べている。平野はこの分析結果について、郵政民営化が大きな争点となった 2005 年衆院選についての調査データを使用していることによる可能性もあり「分析結果の一般化にはやや慎重を要すると思われる」と述べているが、本調査でも前回と今回、同様の結果が出ており、一般化できる知見である可能性が高いといえる。

11 岡田浩・松田憲忠（編著）（2009）『現代日本の政治－政治過程の理論と実際－』ミネルヴァ書房、45 ページ参照。

[表4] 「投票候補」と「候補者イメージ」の関係

(%は各候補のイメージを選択した人の数を分母とする)

		投票候補					合計
		山田修路	一川保夫	亀田良典	その他の候補	棄権+無回答	
各候補者のイメージ	山田候補： 政策や主張がよい	76 75.2%	6 5.9%	4 4.0%	0 0.0%	15 14.9%	101
	山田候補： 実行力がある	34 57.6%	10 16.9%	3 5.1%	0 0.0%	12 20.3%	59
	山田候補： 人柄がよい	61 61.0%	13 13.0%	1 1.0%	1 1.0%	24 24.0%	100
	山田候補： 以上のいずれの印象もない	76 25.2%	59 19.6%	34 11.3%	6 2.0%	126 41.9%	301
	山田候補： 無回答	12 18.5%	13 20.0%	5 7.7%	3 4.6%	32 49.2%	65
	一川候補： 政策や主張がよい	2 7.1%	24 85.7%	1 3.6%	0 0.0%	1 3.6%	28
	一川候補： 実行力がある	8 25.0%	17 53.1%	0 0.0%	1 3.1%	6 18.8%	32
	一川候補： 人柄がよい	9 18.8%	30 62.5%	2 4.2%	0 0.0%	7 14.6%	48
	一川候補： 以上のいずれの印象もない	170 43.3%	34 8.7%	34 8.7%	6 1.5%	149 37.9%	393
	一川候補： 無回答	32 36.0%	6 6.7%	7 7.9%	3 3.4%	41 46.1%	89
	亀田候補： 政策や主張がよい	1 3.6%	3 10.7%	21 75.0%	0 0.0%	3 10.7%	28
	亀田候補： 実行力がある	2 20.0%	2 20.0%	4 40.0%	0 0.0%	2 20.0%	10
	亀田候補： 人柄がよい	3 13.0%	3 13.0%	10 43.5%	0 0.0%	7 30.4%	23
	亀田候補： 以上のいずれの印象もない	178 41.8%	74 17.4%	17 4.0%	7 1.6%	150 35.2%	426
	亀田候補： 無回答	36 36.7%	16 16.3%	1 1.0%	3 3.1%	42 42.9%	98
合 計		220	96	44	10	203	573

紙幅の制約ゆえ、各候補者について政策、実行力、人柄のいずれかの点で評価した人を「印象がある」として候補者イメージを要約したものと、投票候補

と支持政党を組み合わせた〔表 5〕を見ると、自民党支持者で山田候補に「印象がない」と答えた 29.2% (56/192 人) のうちの 55.4% (31/56 人) が、それでも山田候補に投票している。同じく、民主党支持者で一川候補に「印象がない」と答えた 35.8% (19/53 人) のうちの 63.2% (12/19 人) が、それでも一川候補に投票している。共産党支持者についても、亀田候補に「印象がない」と答えた 18.5% (5/27) のうちの 60.0% (3/5 人) が、それでも亀田候補に投票している。表を細分化した結果、それぞれの枠の回答者数が少なくなっているため統計学的な信頼性の問題があり注意して解釈する必要があるが、全体的に、たとえば候補者個人についての良いイメージが無くても、支持政党の公認候補に投票した人が多かったことがわかる。これは前回調査でも確認されたことである。

また、支持政党を持たない人に注目すると、山田候補に何らかの良いイメージを持っている人の 44.9% が山田候補に投票し、一川候補に良いイメージを持っている人の 69.0% が一川候補に投票し、亀田候補に良いイメージを持っている人の 60.0% が亀田候補に投票している。一方、支持政党を持たない人で各候補者について「印象がない」と答えた人は、棄権あるいは無回答が顕著に多くなっている。これも前回調査で確認されたことであるが、候補者イメージは、支持政党を持たない人にとっては特に、投票の際の重要な手掛かりになっていることがわかる。

[表5] 「投票候補」と「候補者イメージ」と「支持政党」の関係

(%は各候補のイメージを選択した人の数を分母とする)

支持政党		各候補のイメージ (要約)									合計
		山田候補 印象有り	山田候補 印象無し	山田候補 無回答	一川候補 印象有り	一川候補 印象無し	一川候補 無回答	亀田候補 印象有り	亀田候補 印象無し	亀田候補 無回答	
自民党	投票候補										
	山田修路	92 77.3%	31 55.4%	9 52.9%	14 58.3%	95 72.5	23 62.2%	5 55.6%	100 71.4%	27 62.8%	132
	一川保夫	2 1.7%	3 5.4%	0 0.0%	3 12.5%	2 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	5 3.6%	0 0.0%	5
	亀田良典	1 0.8%	1 1.8%	0 0.0%	1 4.2%	1 0.8%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	2
	その他の候補	0 0.0%	1 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	0 0.0%	1
	棄権+無回答	24 20.2%	20 35.7%	8 47.1%	6 25.0%	32 24.4%	14 37.8%	2 22.2%	34 24.3%	16 37.2%	52
合 計		119	56	17	24	131	37	9	140	43	192
民主党	投票候補										
	山田修路	1 6.2%	2 7.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.3%	2 22.2%	0 0.0%	1 3.0%	2 12.5%	3
	一川保夫	11 68.8%	21 77.8%	7 70.0%	24 96.0%	12 63.2%	3 33.3%	1 25.0%	28 84.8%	10 62.5%	39
	亀田良典	0 0.0%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.3%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1
	棄権+無回答	4 25.0%	3 11.1%	3 30.0%	1 4.0%	5 26.3%	4 44.4%	2 50.0%	4 12.1%	4 25.0%	10
合 計		16	27	10	25	19	9	4	33	16	53
共産党	投票候補										
	一川保夫	0 0.0%	1 5.3%	2 28.6%	2 66.7%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	1 20.0%	2 50.0%	3
	亀田良典	0 0.0%	15 78.9%	4 57.1%	1 33.3%	13 76.5%	5 71.4%	15 83.3%	3 60.0%	1 25.0%	19
	棄権+無回答	1 100.0%	3 15.8%	1 14.3%	0 0.0%	4 23.5%	1 14.3%	3 16.7%	1 20.0%	1 25.0%	5
合 計		1	19	7	3	17	7	18	5	4	27
その他の政党支持	投票候補										
	山田修路	13 76.5%	7 19.4%	2 33.3%	1 16.7%	18 39.1%	3 42.9%	0 0.0%	19 41.3%	3 37.5%	22
	一川保夫	2 11.8%	8 22.2%	1 16.7%	4 66.7%	6 13.0%	1 14.3%	1 20.0%	8 17.4%	2 25.0%	11
	亀田良典	0 0.0%	2 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.3%	0 0.0%	1 20.0%	1 2.2%	0 0.0%	2
	その他の候補	0 0.0%	3 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.5%	0 0.0%	3
	棄権+無回答	2 11.8%	16 44.4%	3 50.0%	1 16.7%	17 37.0%	3 42.9%	3 60.0%	15 32.6%	3 37.5%	21
合 計		17	36	6	6	46	7	5	46	8	59

支持政党		各候補のイメージ (要約)									合計
		山田候補 印象有り	山田候補 印象無し	山田候補 無回答	一川候補 印象有り	一川候補 印象無し	一川候補 無回答	亀田候補 印象有り	亀田候補 印象無し	亀田候補 無回答	
支持政党 無し	投票候補 山田修路	22 44.9%	31 20.8%	0 0.0%	3 10.3%	49 28.3%	1 5.3%	1 10.0%	51 27.0%	1 5.9%	53
	一川保夫	8 16.3%	24 16.1%	3 17.6%	20 69.0%	14 8.4%	1 5.3%	2 20.0%	31 16.4%	2 11.8%	35
	亀田良典	4 8.2%	13 8.7%	1 5.9%	1 3.4%	15 9.0%	2 10.5%	6 60.0%	13 6.9%	0 0.0%	18
	その他の候補	1 2.0%	2 1.3%	2 11.8%	1 3.4%	2 1.2%	2 10.5%	0 0.0%	3 1.6%	2 11.8%	5
	棄権+無回答	14 28.6%	79 53.0%	11 64.7%	4 13.8%	89 52.1%	13 68.4%	1 10.0%	91 48.1%	12 70.6%	104
	合 計	49	149	17	29	167	19	10	189	17	215
無回答	投票候補 山田修路	4 80.0%	5 35.7%	1 12.5%	0 0.0%	7 53.8%	3 30.0%	0 0.0%	7 53.8%	3 30.0%	10
	一川保夫	1 20.0%	2 14.3%	0 0.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 7.7%	0 0.0%	3
	亀田良典	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2
	その他の候補	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	1
	棄権+無回答	0 0.0%	5 35.7%	6 75.0%	1 25.0%	4 30.8%	6 60.0%	0 0.0%	5 38.5%	6 60.0%	11
	合 計	5	14	8	4	13	10	4	13	10	27

4. 投票基準と投票理由

[表5]の分析で、支持政党がある人は、たとえその公認候補に特に良いイメージを持っていない場合でも、支持する政党に従って忠実に投票する傾向があることが分かったが、有権者は、候補者名を書く選挙区選挙の投票の際、候補者個人と政党のどちらを重視して投票しているのだろうか。

「選挙区選挙（石川県選挙区）では、あなたは政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。当てはまる番号を1つ選んで下さい」という設問への回答と投票候補を組み合わせた[表6]を見ると、全体では「政党」が41.9%、「候補者個人」が9.2%、「どちらともいえない」が16.4%であった。たとえ候補者名で投票する選挙区選挙であって

も、政党を重視して投票した回答者が圧倒的に多いことがわかる。前回調査では、「政党」43.1%、「候補者個人」21.5%、「どちらともいえない」12.1%で、「政党」と「候補者個人」の回答に今回ほどは差が開いていなかった。今回は特に政党を重視して投票した人が多かったことが分かる。

候補者別に見ると、山田候補に投票した人の61.4%が政党を重視して投票したと答えているのに対して、一川候補に投票した人では政党を重視して投票したと答えた人は54.2%とそれよりやや少なく、その分、候補者個人やどちらともいえないという回答が多くなっている。亀田候補への投票者は、政党を重視した人が79.5%と非常に多い。

前回調査では、自民党の現職候補について候補者個人を重視して投票したという人（40.2%）が政党重視という人（44.6%）と同程度存在しており、前回調査の報告書¹²においては、議員主導で分権的な性格が強いといわれる自民党組織の特質が表れている可能性を指摘したが、今回、自民党の山田候補に投票した人には政党を重視して投票した人が多く、その解釈は妥当ではないようである。しかし、共産党候補への投票者について政党重視が非常に多いことは前回調査と共通している。

12 岡田浩（2011）「金沢市における「選挙に関する意識調査」報告書－候補者イメージの投票行動への影響を中心に－」『金沢法学』第53巻第2号。

[表6] 「投票基準（党か人か）」と「投票候補」の関係

(%は各候補に投票した人の数を分母とする)

		投票候補					合 計
		山田修路	一川保夫	亀田良典	その他の候補	棄権＋無回答	
選挙区選挙 の投票基準 (党か人か)	政 党	135 61.4%	52 54.2%	35 79.5%	7 70.0%	11 5.4%	240 41.9%
	候補者個人	33 15.0%	15 15.6%	0 0.0%	1 10.0%	4 2.0%	53 9.2%
	どちらとも いえない	48 21.8%	28 29.2%	9 20.5%	2 20.0%	7 3.4%	94 16.4%
	棄権＋無回答	4 1.8%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	181 89.2%	186 32.5%
合 計		220 100.0%	96 100.0%	44 100.0%	10 100.0%	203 100.0%	573 100.0%

本調査では、投票した人に対して、「投票に行かれたのは、どういうお気持ちからですか。当てはまる番号をすべて選んで下さい」という質問文で投票理由を聞いているが、それと投票候補を組み合わせた[表7]を次に検討してみよう。

投票理由として、「もりたてたい政党があったから」と答えたのは12.6% (72/573 人) で、「当選させたい候補者がいたから」と答えた11.7% (67/573 人) より多かった。前回調査では、「政党」が17.5%で「候補者」が19.6%であり、「候補者」を投票理由に挙げる回答の方が多かったが、先の[表6]の結果と同様、今回は候補者よりは政党を重視して投票した人が多かったことが伺える。

候補者別に見ると、山田候補への投票者にやや候補者を挙げる人が多く（候補者19.1% > 政党16.8%）、一川候補への投票者にやや政党を挙げる人が多い（候補者14.6% < 政党16.7%）。亀田候補への投票者のうち政党を理由に挙げる人は候補者の2倍以上と非常に多くなっている（候補者13.6% < 政党29.5%）。前回調査では、自民党の現職候補への投票者に候補者個人への支持から投票している人が多く（候補者30.7% > 政党17.9%）、民主党候補への投

票者（候補者 19.1%＜政党 28.7%）と共産党候補への投票者（候補者 18.8%＜政党 28.1%）に政党への支持から投票している人が多かったが、今回は自民党候補と民主党候補の差が少なくなっている¹³。

〔表 6〕と〔表 7〕の分析から、今回は候補者よりは政党を重視して投票した人が前回より多かったこと、前回自民党候補に投票した人に候補者個人を評価して投票した人が多かったが、今回は自民党候補と民主党候補であまり差が無かったことが分かる。

13 なお、〔表 6〕では政党を重視した人が圧倒的に多いのに対して〔表 7〕では候補者への支持を投票理由に挙げる人も多いことや、〔表 6〕では山田候補への投票者に政党を重視した人が多いのに対して〔表 7〕では候補者への支持を投票理由に挙げる人の方が多いことなど、〔表 6〕と〔表 7〕にはずれがある。これは、〔表 7〕が多くの変換肢から選択できる設問であるのに対して、〔表 6〕は3つの変換肢中から1つを選択する設問であるため、必ずしも「もりたてたい政党があったから」というわけではないが、政党を手がかりに投票した人なども〔表 6〕には含まれているためである。

岡田浩（2011）、前掲書、170 ページ参照。

[表 7] 「投票理由」と「投票候補」の関係

(%は各候補に投票した人の数を分母とする)

		投票候補						合 計
		山田修路	一川保夫	亀田良典	浜崎 茂	宮元 智	棄権+無回答	
投票理由	候補者	42 19.1%	14 14.6%	6 13.6%	0 0.0%	2 50.0%	3 1.5%	67
	政党	37 16.8%	16 16.7%	13 29.5%	0 0.0%	2 50.0%	4 2.0%	72
	選挙に関心	42 19.1%	16 16.7%	7 15.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.0%	67
	投票が大事	124 56.4%	56 58.3%	20 45.5%	4 66.7%	1 25.0%	15 7.4%	220
	投票は義務	104 47.3%	45 46.9%	17 38.6%	4 66.7%	1 25.0%	16 7.9%	187
	家族に言われて	4 1.8%	3 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7
	団体や知り合いの依頼	16 7.3%	6 6.2%	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	24
	その他	2 0.9%	6 6.2%	3 6.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.0%	13
	無回答+棄権	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	176 86.7%	177
合 計		220	96	44	6	4	203	573

5. 選挙区と比例代表の票のずれ

前節での分析で、今回は特に、選挙区選挙で候補者個人よりは政党を重視して投票した人が多かったことが確認できたが、次に、有権者が選挙区と比例代表で投じた票の一致度を検討してみよう。

[表 8] の比例代表選挙の開票結果と、[表 1] の石川県選挙区の開票結果を見比べると、山田候補は自民党の比例票に推薦を得ていた公明党の比例票を足したものよりも、石川県全体で 6.2%、金沢市で 9% 多く得票し、一川候補は民

主党の比例票よりも石川県全体で 7.1%、金沢市で 6.7% 多く得票し、亀田候補は共産党の比例票よりも石川県全体で 2.1%、金沢市で 3% 多く獲得しており、いずれの候補者も公認や推薦を得ていた政党の比例票よりも多くの票を獲得したことが分かる。

選挙区と比例代表の票がずれる「分割投票」の要因としては、①選挙区に公認候補がいない政党の支持者の動向、②先述の「戦略投票」、③本稿で扱っている有権者の候補者イメージなどの候補者要因の影響、④政党間の得票均衡をはかるための意図的な分割投票である「均衡投票」（政権党が必要以上に勝ちすぎないように政権党支持者が比例代表では対抗政党に投票する「牽制投票」や、支持政党のほかに好意を持っている次善の政党にも票を分配する「分配投票」などがある）の影響、などが挙げられるが¹⁴、いずれの要因が作用したのであろうか。

14 三宅一郎（2001）『選挙制度改革と投票行動』木鐸社、190 ページ参照。

[表 8] 2013 年参院選比例代表選挙開票結果¹⁵

	全 国		石川県		金沢市	
	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率
民 主 党	7,134,215	13.4%	79,407	15.9%	28,113	16.1%
自 民 党	18,460,335	34.7%	245,762	49.3%	75,671	43.4%
公 明 党	7,568,082	14.2%	46,480	9.3%	17,394	10.0%
みんなの党	4,755,160	8.9%	29,352	5.9%	11,643	6.7%
共 産 党	5,154,055	9.7%	29,868	6.0%	13,751	7.9%
社 民 党	1,255,235	2.4%	9,329	1.9%	3,717	2.1%
維 新 の 会	6,355,299	11.9%	40,996	8.2%	17,058	9.8%
生 活 の 党	943,836	1.8%	5,825	1.2%	2,320	1.3%
緑 の 党	457,862	0.9%	3,688	0.7%	1,679	1.0%
幸福実現党	191,643	0.4%	2,810	0.6%	911	0.5%
みどりの風	430,742	0.8%	2,408	0.5%	960	0.6%
新 党 大 地	523,146	1.0%	2,126	0.4%	935	0.5%

選挙区の投票候補と比例代表の投票政党¹⁶についての回答を組み合わせた[表 9]を見ると、比例で自民党に投票した人のうち選挙区も山田候補に投票した人は 89.4%、比例で民主党に投票した人のうち選挙区も一川候補に投票した人は 75.4%、比例で共産党に投票した人のうち選挙区も亀田候補に投票した人は 71.2% であった。

共産党の歩留まりが悪いが、どの候補者に流れたのかを見ると、比例では共産党に投票しても選挙区では共産党と同じく野党である民主党の一川候補に投票した人が 21.2% と多い。これは、先述の「戦略投票」の影響と考えられる。

また、比例では民主党に投票しても選挙区では山田候補に投票した人が 18.0% もおり、それよりは少ないながらも、比例では自民党に投票しても選挙

15 石川県選挙管理委員会ホームページ及び総務省ホームページより作成。

16 非拘束名簿式の比例代表選挙のため、候補者名を書いて特定の政党に投票した人も含む。

区では一川候補に投票した人も7.5%いる。これらは戦略投票では説明できない。どのように考えればよいのだろうか。

[表 9] 「選挙区の投票候補」と「比例代表の投票政党」の関係

(%は比例代表で各政党に投票した人の数を分母とする)

		投票候補					合計
		山田修路	一川保夫	亀田良典	その他の候補	棄権＋無回答	
比例代表の投票政党 (候補者名での投票含む)	自民党	143 89.4%	12 7.5%	0 0.0%	1 0.6%	4 2.5%	160 100.0%
	民主党	11 18.0%	46 75.4%	0 0.0%	1 1.6%	3 4.9%	61 100.0%
	公明党	26 89.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 10.3%	29 100.0%
	社民党	2 40.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	共産党	2 3.8%	11 21.1%	37 71.2%	0 0.0%	2 3.8%	52 100.0%
	みんなの党	12 38.7%	9 29.0%	3 9.7%	3 9.7%	4 12.9%	31 100.0%
	維新の会	16 44.4%	9 25.0%	3 8.3%	1 2.8%	7 19.4%	36 100.0%
	幸福実現党	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%
	その他の政党	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
	どの政党かわからない	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	棄権＋無回答	2 1.1%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	180 98.4%	183 100.0%
合 計		220 38.4%	96 16.8%	44 7.7%	10 1.7%	203 35.4%	573 100.0%

[表 10] で、比例では民主党に投票したが、選挙区では山田候補に投票した回答者 (11 人) について詳しく見てみると、その 54.5% (6/11 人) が一川候補について「印象がない」と答えている一方、政策の点などで山田候補を評価している人が多いことがわかる。一方、比例では自民党に投票したが、選挙区では一川候補に投票した回答者 (12 人) について見ると、その 50.0% (6/12 人)

が山田候補について「印象がない」と答えている一方、一川候補を人柄などの点で評価している人が多いことがわかる。これらの回答者は、候補者個人を評価して、選挙区では比例代表とは違う投票行動をとったものと推測できる。

[表 10] 「候補者イメージ」と「比例と選挙区の投票」の関係

(%は比例と選挙区の投票について該当する人の数を分母とする)

		比例と選挙区の投票									合 計
		自民 + 山田	自民 + 一川	自民 + 山田・ 一川 以外	民主 + 一川	民主 + 山田	民主 + 山田・ 一川 以外	共産 + 亀田	共産 + 亀田 以外	比例は 自・民・共 以外 + 棄権	
各 候 補 の イ メ ジ	山田候補： 政策や主張がよい	60 42.0%	1 8.3%	1 20.0%	4 8.7%	4 36.4%	0 0.0%	3 8.1%	0 0.0%	28 9.3%	101
	山田候補： 実行力がある	22 15.4%	2 16.7%	0 0.0%	6 13.0%	2 18.2%	0 0.0%	3 8.1%	0 0.0%	24 8.0%	59
	山田候補： 人柄がよい	40 28.0%	3 25.0%	0 0.0%	6 13.0%	3 27.3%	1 25.0%	1 2.7%	1 6.7%	45 15.0%	100
	山田候補： 以上のいずれの印象もない	43 30.1%	6 50.0%	4 80.0%	30 65.2%	4 36.4%	0 0.0%	28 75.7%	8 53.3%	178 59.3%	301
	山田候補： 無回答	8 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	5 10.9%	0 0.0%	3 75.0%	5 13.5%	6 40.0%	38 12.7%	65
	一川候補： 政策や主張がよい	2 1.4%	3 25.0%	0 0.0%	13 28.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.7%	3 20.0%	6 2.0%	28
	一川候補： 実行力がある	2 1.4%	2 16.7%	0 0.0%	10 21.7%	3 27.3%	1 25.0%	0 0.0%	1 6.7%	13 4.3%	32
	一川候補： 人柄がよい	4 2.8%	8 66.7%	0 0.0%	12 26.1%	1 9.1%	0 0.0%	2 5.4%	7 46.7%	14 4.7%	48
	一川候補： 以上のいずれの印象もない	112 78.3%	1 8.3%	4 80.0%	18 39.1%	6 54.5%	0 0.0%	27 73.0%	3 20.0%	222 74.0%	393
	一川候補： 無回答	23 16.1%	0 0.0%	1 20.0%	2 4.3%	1 9.1%	3 75.0%	7 18.9%	3 20.0%	49 16.3%	89
	亀田候補： 政策や主張がよい	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	19 51.4%	2 13.3%	5 1.7%	28
	亀田候補： 実行力がある	1 0.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	4 10.8%	1 6.7%	2 0.7%	10
	亀田候補： 人柄がよい	2 1.4%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 21.6%	2 13.3%	10 3.3%	23
	亀田候補： 以上のいずれの印象もない	113 79.0%	10 83.3%	4 80.0%	37 80.4%	9 81.8%	1 25.0%	13 35.1%	7 46.7%	232 77.3%	426
	亀田候補： 無回答	26 18.2%	0 0.0%	1 20.0%	8 17.4%	1 9.1%	3 75.0%	1 2.7%	5 33.3%	53 17.7%	98
	合 計	143	12	5	46	11	4	37	15	300	573

6. おわりに

本稿は、有権者は候補者をどのようなイメージで捉えているのか、そしてそれは投票行動にどのような影響を与えているのかについて、2013年参院選後の金沢市における意識調査のデータを、前回2010年参院選後に行った同様の調査のデータとも比較しながら分析を行ってきた。

今回の調査でも前回の調査でも共通して確認されたことは、全体的に、候補者について何らかの良いイメージを持つ人は少なく、政党ではなく候補者を基準に投票する人も少ないことである。多くの有権者は新人は言うに及ばず現職の候補者についてすら何ら良いイメージを持っていないこと、公認候補を出している政党の支持者であってもその候補者について何ら良いイメージを持たない人が多いこと、たとえ候補者個人について特に良いイメージが無くても支持政党の公認候補に忠実に投票する人が多いこと、また、候補者名で投票する選挙区選挙であっても政党を基準に投票する人が多いことが確認された。

しかし、数は少ないながらも候補者について何らかの良いイメージを持っている人については、それは投票行動に大きな影響を与えていることが今回の調査でも確認された。各候補者について何らかの良いイメージを持つ人には投票に行った人が多く、逆に各候補者について「印象がない」と答えた人には棄権した人が多い。特に、支持する政党を持たない人にはその傾向が顕著であり、支持政党を持たない人にとっては候補者イメージが投票の際の重要な手掛かりになっていることが分かった。また、候補者イメージが比例代表での投票政党とは異なる政党の公認候補への投票につながることも少なくないこと、政策、実行力、人柄の3つの候補者イメージの中では、特に政策について良いイメージを持つことが、その候補者への投票につながりやすい、ということも、再度確認された。

一方、今回の調査と前回の調査で異なった分析結果になったものもある。前回調査では、自民党公認の現職候補について良いイメージを持っている人が多く、特に、実行力と人柄について良いイメージを持っている人が多かった。今

回調査では、現職の一川候補は、政策、実行力、人柄のいずれの点のイメージでも新人の山田候補に及ばなかった。失言などの影響で悪いイメージはあっても良いイメージが無かっただけという可能性もあるが、好き嫌いを別にした認知度についても、現職の一川候補は新人の山田候補に及んでいなかった。

また、今回は、自民党の現職候補への投票者は候補者個人を評価して投票した人が多く、民主党候補や共産党候補への投票者は政党を評価して投票した人が多い、という違いが明確にあったが、今回は、共産党候補への投票者に政党を評価して投票した人が多い点は前回と同じだが、自民党候補への投票者に特に候補者個人を評価して投票した人が多いということはなかった。自民党の山田候補は、今回の候補者中では最も認知度やイメージが高かったとはいえ、新人であるためか前回参院選の自民党の現職候補に比べると実行力と人柄の点で良いイメージを持つ人が少なく、山田候補への投票者は政党を基準に投票した人が多かった。

前回調査の報告書においては、「今後の課題」として、なぜ候補者によって有権者のイメージやその投票行動への影響が異なるのか、それは所属政党の特性を反映しているのか、現職か新人かという違いを反映しているのか、それとも候補者の特性を反映しているのか、について、複数の選挙や候補者について調査・分析を重ねることによって明らかにする必要を挙げておいた。

共産党候補への投票者に政党を重視して投票する人が多いことについては前回と今回で分析結果が一致しており、政党（及びその支持者）の特性を反映しているといえそうだが、自民党と民主党の候補者については、同じ自民党の候補者であっても、前回の岡田候補と今回の山田候補では大きく異なり、同じ現職の候補者であっても、前回の岡田候補と今回の一川候補では大きく異なっていた。

本稿は、候補者イメージとその投票行動への影響について、2013年参院選後の金沢市における意識調査のデータを、前回2010年参院選後に行った同様の調査のデータと比較しながら分析をしてきたが、まだ多くの課題が残されて

おり、今後さらに調査・分析を進める必要がある。

本稿の最後に、お忙しい中、本調査にご回答を頂いた 573 人の方々に厚く御礼申し上げたい。